

善通寺 概要

善通寺は仏教の真言宗のお寺です。その歴史は807年にまで遡ります。真言宗の開祖であり地域の豪族の息子だった空海（774-835）が自らの先祖の代からある寺の隣に善通寺を建てたのが始まりです。広々とした敷地に建つ様々な建物から成る善通寺には現在2つの隣接した聖域があります。空海が建てた東院と、空海の生まれた場所に建てられ、19世紀末までは別の寺社であった西院です。

金堂は善通寺の本堂であり、医薬と癒しの仏であり、善通寺の本尊である薬師如来の坐像を祀っています。現在の金堂と薬師如来坐像はそれぞれ1699年と1700年に建てられたもので、オリジナルは1558年に火事によって失われています。四国のこの地域は感染症の流行に何度も襲われているので、薬師如来を奉るのが一般的となっています。東院には他にも、50年という歳月をかけて1階ずつ建設された五重塔や、1904年から1905年の日露戦争における日本の勝利を記念して建てられた雄大な構えの南門などの素晴らしい建築があります。境内には樹齢1,100年を越え、空海の時代から地面を覆うようにして伸びてきたと言われる2本の大きなクスノキもあります。

西院の敷地は東院よりも少し狭いですが、御影堂にてお参りをする参拝者たちから敬われています。空海の生まれた場所に建てられた壮麗な御影堂は、真言宗の開祖である空海を本尊としています。